

おほとものさかのうへのいちつめ  
大伴坂上郎女、筑紫の大城の山を偲ふ歌

一首

一四七四番

いまもかも 大城の山に ほととぎす 鳴きとよむ  
われ 我なけれども

おほとものさかのうへのいちつめ  
大伴坂上郎女の霍公鳥の歌一首

一四七五番

なにしかも こだく恋ふる ほととぎす 鳴く  
こゑき 声聞けば 恋こそ増され

せはりだのあそみひろみみ  
小治田朝臣広耳の歌一首

一四七六番

ひとり居て 物思ふ夕に ほととぎす 二ゆ鳴き  
わた 渡る 心しあるらし